

## 第 632 回 新潟放送番組審議会 議事録

### — 議題 —

#### テレビ番組

平成 29 年度文化庁芸術祭参加作品  
BSN新潟放送創立 65 周年特別番組  
「ドナルド・キーン 95 歳 心の旅」  
(11 月 15 日放送分)



平成 29 年 11 月 29 日

**BSN**新潟放送

## 第632回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成29年11月22日(水) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員	相羽利子	委員	古賀豊
委員	正道かほる	委員	佐藤元
委員	服部誠司	委員	小原清文
委員	小島良子	委員	細田康

○委員側欠席者

委員	池田幸博	委員	高木言芳
----	------	----	------

○放送事業者側出席者

社長	佐藤隆夫	常務	島田好久
営業本部長	金田博幸	編成局長	増山由美子
情報センター長	丹羽崇		

<説明員> 放送本部情報センター プロデューサー 南加乃子

事務局出席者

事務局員 和田司(広報部長)

4. 議題

1 報告事項 12月の新番組、単発番組について(各局長)

2 審議番組 テレビ番組

✳平成29年度文化庁芸術祭参加作品

B S N新潟放送創立65周年特別番組

「ドナルド・キーン 95歳 心の旅」

(2017年11月15日(水) 20時00分～21時57分放送分)

## 5. 議事の概要

各局長からの2017年12月度番組報告等に続いて、テレビ番組

✿平成29年度文化庁芸術祭参加作品及びBSN新潟放送創立65周年特別番組

「ドナルド・キーン 95歳 心の旅」(11月15日放送分)について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- 2時間のドキュメンタリー。前半が古浄瑠璃をめぐるパート、後半はキーン氏の若い頃の思い出の地を辿るパートで構成されていた。前半がクライマックスかと当初は思ったが、タイトル通り「キーン氏の人柄を伝える番組」とわかり、大変感銘を受けた。キーン氏を知らない人が見ると、何とも“穏やかな”番組と見えてしまうかもしれないが、それは知らない人なので…致し方ないと思う。
- 古浄瑠璃のパートはユーモアも交えながら経緯などを整理して伝えていた。個人的には“新しい文化の窓”を開いていただき、感謝する。歴史ある学園都市の風景も伝わってきたし、戸田恵子さんの軽妙なナレーションも良かった。
- 古浄瑠璃のロンドン公演を伝える際、字幕があって良かった。字幕が無かったらわからなかった。準備の大変さも描かれていて秀逸だった。ただ、キーンさんの足跡がわかっている人ならいいが、そうでない人には難しかったのではないか。また、時間軸の変動が激しく、年代が目まぐるしく前後していた点はわかりにくかった。
- ケンブリッジ大学時代のパートはトーンが下がったが、キーン氏の表情は良くでていた。旅番組のようで楽しめたが、短くても良かったのではないか。全編を通して、番組タイトル通り“心の旅”という印象を受けたが、個人的には番組ラストがあれで終わったのはどうなのか？という思いがある。
- 古浄瑠璃に関して、「古くて新しい」というキーン氏の言葉が印象に残った。文化の伝承というのは、伝える方々の思いも入って伝えられるもの。伝える側の情熱とか、心を揺さぶる部分を感じられた。

～新潟放送 放送本部情報センター 南加乃子プロデューサーから～

- 今回の番組制作の話が持ち上がったのは約1年前だが、実は95歳のキーン先生が果たしてイギリスに行けるかどうか、不安定な状態が続いていた。ただ、仮に行けなくとも番組は作ると決まったので背水の陣で制作に臨んだ。また、イギリス滞在中にマンチェスターでテロが起き、警戒レベルは最高の「5」という中、取材にあたった。街中でカメラとか三脚を持っていると、警察から「ダメ、ダメ」といわれる始末であったが、カメラを大小合わせて4台スタンバイし、何があってもどれかのカメラで撮影できるように臨んだ。番組の裏テーマは“最近出来た息子との二人旅”。帰国して、

撮影したVTRをみて、“ケンブリッジのほうが一番受けは良いかな”と思ったが、キーン氏の義理の息子、キーン誠己さんとの関係もしっかり描こうと思った。一般的には“とっつきにくい”かもしれないが、“ドナルド・キーン=知の巨人”ということだけで済ませるのではなく、どういう足跡を辿りこうなったのか、力を入れて紹介させていただいた。本日はご審議、ありがとうございました。

【文責・番組審議会事務局】

---